

令和3年度

東久留米市立第十小学校

学校経営計画



令和3年4月1日 校長 古矢美雪

◆ 教育目標

- | | |
|-------------|------------------------|
| ○ よく考える子（知） | よく考えて判断し、課題解決できる子 |
| ◎ やさしい子（徳） | 自分も大切・他人も大切にし、思いやりのある子 |
| ○ たくましい子（体） | 心と体を鍛え、活力に満ちた子 |

I 経営ビジョン

今年度のキーワード 「柔軟な思考・創意工夫」と「愛校心・地域愛」

(1) 目指す学校像

児童・教職員が生き生きと活動し、地域に信頼される学校

(2) 目指す児童像

児童が自ら進んで学び、楽しく生活できる学校

(3) 目指す教職員像

教職員一人一人熱意と使命感をもち、和を大切に連携して取り組む学校

【経営理念】 すべては、子供たちのために！

「限りない可能性を秘めた子供たちを、
将来の日本を託すことが出来る大人に育成する。」

近年は変化の時代である。未来の日本を担っていく子供たちには、時代や社会の変化に柔軟に対応できる資質・能力が求められている。今年度も引き続き、新型コロナウイルスへの対応が待ち受けている。昨年度同様に子供も大人も**柔軟な思考力**をもち、ICTも積極的に活用しながら、学びを止めることなく教育活動を維持できるよう、子供たちと共に**創意工夫**を重ねていく。

加えて今年度本校は、学校創立49年目を迎える。来る令和4年度の50周年に向けて子供たちの心の中に**愛校心**を育てていく。また同時に、学校を支えてくださる**地域社会へ感謝の気持ち**をもつことができるよう、地域の力もお借りしながら教育活動を充実させる。

未来へ向かう新しい息吹を取り込みながら、全教職員が一丸となり、以下の視点で学校経営を行っていききたい。

- ①全教職員が教育活動に**組織的に**取り組むことができる経営をする。
- ②子供・教職員・保護者**一人一人を大切に**する経営をする。
- ③保護者・地域と連携し、**地域の教育力を生かした**経営をする。
- ④教育活動の**成果が見える**経営をする。

II 学校経営の目標

(1) 中期的な目標（令和4年度までの目標）

①人権尊重の精神

全教育活動を通して、児童に人権尊重の精神を正しく理解させるとともに、自他のよさを認め、他を深く思いやり、健康で明るく心豊かな児童を育成できる学校

②確かな学び・魅力ある授業

基礎的・基本的な事項を確実に身に付けさせるとともに、主体的・対話的で深い学びを通して、思考力・判断力・表現力を身に付けさせることができる学校

③信頼される学校

教職員が厳正なサービスを心がけ、保護者・地域住民が学校を信頼し、連携しながら共に児童の教育に当たることができる学校

◆①②③の実現を目指し、教職員が協働意欲を高め、教職員自身も成長する学校

(2) 今年度の目標

①人権尊重の精神

児童理解を深め、課題の早期発見・早期解決に向けて組織的に取り組む。昨年度に引き続き「自分も大切・友達も周りの人達もみな大切」を合言葉にし、「誰にとっても居場所があり、誰にとっても居心地のよい学校」をめざす。それに加え、次年度の創立50周年を見据えて、「学校のよさ」「地域のよさ」にも気付き、愛校心・地域愛をもつことができるようにする。

②確かな学び・魅力ある授業

昨年度に引き続き、ユニバーサルデザインの視点にたった授業を展開し、誰もが分かる楽しい授業を継続する。また、児童一人一人の学習状況を見極めつつ、主体的・対話的で深い学びを意識し、ICTの効果的な活用を試みながら、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着をめざす。さらに、教員自身の言語環境を整え、「言葉」にこだわり「言葉」を大切にしている取組を通して、正しく美しい日本語の担い手となる児童を育成する。

③信頼される学校

厳正なサービスを心がけ、保護者・地域社会に学校の教育活動を積極的に発信して理解を求める。地域の皆様と共に創立50周年を祝うことができるように、協力体制と連携を今まで以上に確かなものとする。

III 目標達成上の課題

①人権尊重の精神の視点で

- ・昨年度までくり返し取り組んできた自他のよさを認め尊重するという考えをさらに広げ、「学校のよさ」「地域のよさ」への認識・尊重という視点をもつ必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染等に関わる偏見や差別への撤廃の取組を、継続させ充実する。

②確かな学び・魅力ある授業の視点で

- ・学習に意欲的に取り組むようになってきたが、学力の定着に依然として課題がある。
- ・思考力、判断力、表現力の更なる伸長が必要である。

③信頼される学校の視点で

- ・PTA、青少協、自治会、老人会及び下里中学校との連携を、さらに充実させる。
- ・学校内外の情報を、引き続き積極的に発信する必要がある。

Ⅳ 目標達成のための具体的な方策

①人権尊重の視点で

- ①自己肯定感・他者理解の育成に向けた取組
- ②創立 50 周年に向けて、道徳の授業を中心とした「愛校心」「地域愛」の醸成
- ③家庭との連携を図り、基本的な生活習慣の着実な定着
- ④「学校いじめ防止基本方針」に基づいたいじめの組織的な対応と外部機関との連携
- ⑤特別活動、異年齢集団活動を通じた、人との温かい関わりの充実
- ⑥特別支援教室の充実に向けた取組の更なる推進

②確かな学び・魅力ある授業の視点で

- ①学習規律の徹底
- ②基礎的基本的な学習内容の確実な習得
- ③ギガスクール構想を受けて、児童が一人一台所持するタブレットや、デジタル教科書の効果的な活用
- ④正しく美しい日本語を用いるとともに、活字に親しむ読書活動の充実
- ⑤創立 50 周年を見据え、「学校のよさ」・「地域のよさ」を学ぶ活動の充実
- ⑥体験的な学習活動を取り入れた主体的な学習活動の展開
- ⑦オリパラ教育を視野に入れた体力・健康教育・食育の充実

③信頼される学校の視点で

- ①児童が安全・安心に生活することができる安全教育の推進
- ②創立 50 周年に向けて、下里中学校、青少協、自治会、老人会等、地域社会との連携の更なる強化
- ③教育公務員としてのサービスの厳正
- ④学校日より、学校ウェブサイト等を活用した、積極的な教育活動の発信
- ⑤保護者同士が互いに連携を深めつつ、効率のよい P T A 活動の推進

Ⅴ 経営の評価（年度末評価）

- (1) 児童の評価
- (2) 教職員の評価
- (3) 保護者・地域（学校関係者）の評価



◆上記 (1) (2) (3) の評価を、12 月末に実施し、経年比較する。



VI 教職員の目標

「教育は人なり」

子供を教え導く教職員の人格や力量こそが、子供に学びへの積極的な姿勢を育む。教職員は常に研究と修養につとめ、一人一人の子供を大切にしながら豊かな学びを提供できる指導者でありたい。

また、学校は組織体である。校長をトップにし、各分掌組織が連携して調和をとり、相互に機能してこそ効果を発揮する。そのために、以下の3つのキーワード・5つの心得を大切に、組織目標（学校経営目標）達成のために力を合わせ、知恵を結集して取り組む。

◆ 3つのキーワード ◆

スピード

- ・仕事のやる気はスピードで見せる。
- ・初期対応がすべて

連携

- ・一人ではなく組織（チーム）で対応
- ・「相⇒連⇒報」の徹底

謙虚

- ・「誰からも学ぶ」姿勢
児童・教職員・保護者
地域社会・教育行政

◆ 教職員の姿勢（5つの心得） ◆

心得

1. 「はい」という**素直**な心
2. 「すみません」という**反省**の心
3. 「わたしがします」という**奉仕**の心
4. 「おかげさま」という**謙虚**な心
5. 「ありがとう」という**感謝**の心

